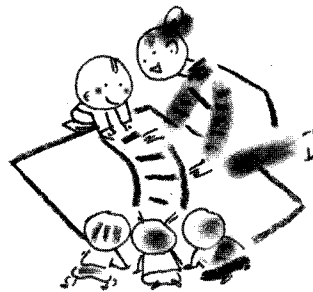


A男との二年間

春野 すみれ



私の勤めている幼稚園はさいたま市にある年少、年中、年長各二クラスずつの小規模の園です。子ども一人ひとりの個性を大切にして伸びていけるように、保育者全員で協力し合って保育をしています。子どもたちは、幼稚園で出会うたくさんの友達と遊びかわる中で、笑ったり、泣いたり、時には葛藤しながら、相手を思いやる気持ちを育てていきます。子どもたちから自然にわいてくる優しさに触れたとき、とても温かい気持ちになります。

年中、年長と続けてA男の担任をする中で、子どもたちはお互いに育ち合っていくということを学ぶことができました。

今回、その二年間を書いてみたいと思います

A男について

A男は、入園前に広汎性発達障害との診断を受けました。言葉は達者ですが、自分のペースでの行動が目立ち、何も言わずに遊びに入っていたり、周りの子

にだめと言われると「お前なんか、お前なんか」と怒って、泣いて止まらなくなったりということが毎日のようにありました。

アスペルガー症候群という障害の特性として言われることですが、視覚から入る部分が大きく、興味をもつとすぐに手を出してしまったり、相手の気持ちの読み取りが難しかったりすることが関係しているようでした。被害者意識も強く、トラブルのたびに、相手にされたことや言われたことに、とても傷ついていて、家でも「あの悪い子は太鼓にしたいちゃえ！」などと、A男独特の考え方や話し方で母親に伝えていたようです。

年中「A男くんってよくわかってるんだね」

入園当初、A男はトラブルの連続でした。特に、魅力的なB男のブロック遊びに興味をもち、手を出すことが多く、B男は「だめ！ 僕が作ったんだよ！」と

よく泣いて怒っていました。その都度A男には物の借り方や遊びへの入り方、謝り方を次へつながらっていくように願いを込めて話してきました。

六月。A男とI保育者（週一、二日A男の補助に入る）が紙に線路と駅名を書き込み線路作りをしていました。A男たちの様子を見ているB男、D男、A子に気づいたI保育者は「A男くん、みんなに駅を教えてあげたら？ 埼京線なんだよね」と話すと、「知ってる！」と三人とも話に入ってきました。

A男は「ここが大宮で、ここが北与野で……ここが中浦和。武蔵浦和は通勤快速が停まるんだ」とうれしそうに説明すると、B男は「へー、A男くんって、よくわかってるんだね」。褒められたA男は誇らしげでした。

このB男の「よくわかってるんだね」の言い方はまるでお兄さんです。しかし、A男にとって友達の良い

所を認めることのできるB男の存在は、その後とても大切な存在になっていきました。

二学期に入り、運動会の取り組みが始まったのですが、自分の遊びに区切りがつかず、「行きたくない」と室内で本を読もうとするA男でした。先の見通しもつことが苦手なため、声をかけるだけではなく、事前に紙に予定を書いて知らせたり、「本を見てほしいけど、テラスにいてね」と、外へ誘ったりしていました。練習をやっているその場にはいてほしい、その雰囲気を感じてほしい、視界に入ってくれば興味が出てくるのでは、という気持ちや考えからでした。

そんなある日のこと。学年表現（音楽に合わせて踊ったり身体を動かす種目）の練習が始まり、私はA男をテラスに連れてきました。そこで、B男たちが段ボールで作った救急車に乗って参加しているのを見て、惹かれたA男は、救急車チームに入ることにしたのです。B男が「始まるよ」と声をかけたり、周りの

子たちもA男なりの参加を受け入れたりしていました。そして迎えた運動会当日は、A男なりに頑張り自信になったようでした。

またこのころ、「入れて」や「貸して」のひと言を使えるようになってきて、ほかの友達との小さなやり取りが増えていきました。「A男くん、お友達ができたね」と、保育者にこっそり伝えてくる子の姿もあり、A男の成長やそれを喜ぶ子どもたちをうれしく思いました。

年長になって

クラス替えをした進級当初、A男は特に不安がることなく、喜んで新学期のスタートを切りました。しかし、一緒のクラスになった新しい子どもたちと毎日のようにトラブルが起きました。その都度、どうしてこうなったのかをゆっくり聞いたり、保育者が話をしたり、紙に書いて説明したりすると、原因がわかっ

て、友達に謝ったり、もう一度伝えてみる姿がありました。

六月、段ボールの電車を作り始めたA男を見て、E男が「手伝うよ！」と入ってきました。「いいよ」と受け入れられるようになったA男。その後、新しい友達のかかわりが多くなっていきました。

こんな出来事もありました。年中の三学期には、いす取りゲームに興味をもてずに参加しなかったA男でしたが、六月半ばのこの日、初めて一緒に楽しむことができました。しかし、A男は最後まで勝ち残ったB子に「おめでとう！」と抱きつき、驚いたB子は泣いてしまったのです。

「相手はどう感じるのか」と考える前に行動してしまったことは、A男の苦手な部分が出たなと思いました。しかし、B子に対する気持ち、そして一緒に喜ぼうとしたA男に、大きな成長を感じ、うれしくなりました。

七月「イルカショー」

この日、B男とC男が大型積み木でイルカのジャンプ台や、くぐる所を作り始め、「イルカショー」をしようということになりました。C男はとても正義感が強く意欲的な子です。一方、落ち込むと立ち直りに時間がかかる子でもあります。そんなC男とB男が二人で遊ぶのは珍しかったので、楽しめたらいいなと思って見ていました。

部屋に戻ってきたA男が、B男とC男のイルカのお面を見て「あつ、イルカだ。僕もやりたいな」と言いだしました。「えーっ」とC男。表情も曇ってしまいました。C男は背の順で並ぶ時に、自分の前でなかなか立ってられないA男を何とかしようと、いつも頑張っていました。そんな「ちょっと大変」なA男が遊びに入ってきたようです。

しかし、B男が「いいよ、でもちゃんと僕について

きてよ」と言ったことで、渋々だとは思っているのですが、男もうなずいて遊びが始まりました。三人でイルカになりきり、ジャンプやくぐることを楽しみ盛り上がりました。

二学期、うまくいかないことがあり、パニック状態になっているA男に、B男が「A男くん大丈夫だよ」「イルカシヨーでもやる?」となぐさめながら誘うことで、再びイルカシヨーが始まりました。A男にとつてB男の存在が大きくなり、B男を軸にしてA男とC男がつながることができたことはとてもうれしく、大切にしたい関係だと思いました。

A男とC男が。ペアになる

運動会の年長のメインである組み立て体操。二人組みのペアを背の順で決めました。A男の相手をB男にしようか悩んだのですが、一学期にA男を並ばせようと頑張っていたC男に任せてみたい気持ちもあり、A

男C男のペアで、運動会の取り組みは始まりました。

正義感もあり一生懸命なC男。A男に何度も「A男くん、A男くん」と声をかけ、手を取ろうとします。しかし、気分がなかなか乗らないA男は練習に参加しようとしません。C男には「先生たちも一緒にやるから、無理しないでね」と伝えていたのですが、つらくなってしまったC男は突然泣き出してしまいました。すれ違いの二人でしたが数日後、一緒に遊ぶ場面があり、自然な関係に戻ることができました。「運動会の予行は、やらない!」と言っていたA男。気づくとC男と楽しそうに踊っていました。

年長の運動会となると、本番だけではなく創りあげていくその過程も大切で、その達成感も味わってほしいというのが願いです。しかし、A男にとつてはゴールできれば百点であり、その過程は無意味なようでした。そのため練習には気持ちは入らず、途中で抜け出し本を読もうとします。どうかかわるのがA男のため

なのか……私はよく葛藤していました。

私の葛藤を知ってか知らずか、クラスの子どもたちは、そんなA男の姿を、しっかり受け入れていました。ピラミッドを作るとなれば、A男を誘いに行き、全員で波を作るとなれば、また誘いに行く。その中でも、D子が「A男くんがいないとだめなんだよ」と優しく声をかける場面があり、その様子を見守りつつ、A男には「自分が必要なんだ」ということに気づいていってほしいと願っていました。

運動会当日、A男はC男やみんなと一緒にしっかり取り組むことができました。A男もC男も、二人なりに達成感を感じることができたと思っています。

A男と過ごした二年間は、担任としてたくさん悩んだり、たびたび葛藤したりしてきました。しかし、A男とかかわってこられたことで、私もクラスの子どもたちも得ることが多くありました。

特にB男とC男。A男が成長できたのはB男の存在が大切だったと思います。しかしそれだけではなく、実は、B男もA男に助けられていました。遊びに入れない時期があつたB男は、A男とのかかわりによって支えられ、また次に向かつていくことができたのです。C男もA男との出会い、かわりによって幅が広がっていったと考えています。

子どもたちは互いの存在を認め合いながら友達とかわり、できないことがあれば、自然に助け合えるようなクラスの雰囲気になっていきました。A男もB男もC男もほかの子どもたちも、みんながいたことで、互いに育ち合つていったのではないのでしょうか。これからも子ども一人ひとりを大切に考え、そのメッセージを伝えながら、愛情をもって接し、私自身も子どもと共に成長していきたいと思っています。

(埼玉県 私立幼稚園)